



木立こだちの中を散策するように過ごす「SENGAWA TERRACE」は、軒先や蛇籠ベンチの照明、ガーデンライトなど多種多様なあかりが空間を包み込んでいる。その日の気分に合わせて居心地の良い場所を見つけられる中庭空間を創出している

フォレストスクエア仙川

土地の緑の記憶を紡ぎ、まちの新たな居場所を創出する「緑のまちなみ建築」

株式会社カワタケは自社が所有する土地・建物を「仙川というまちをデザインするピース」と位置づけ、これらが調和することでまちの美しさと機能を高める、まちづくりビジョン「SENGAWA DESIGN PIECE」を掲げてきた。2025年12月にオープンを迎えた「フォレストスクエア仙川」は、その理念を体現するデザインピースとして計画された商業施設である。本施設の設計・施工を担ったのが、これまでも「カワタケオークビル」などを手掛けた株式会社竹中工務店。建築は周辺の街並みと呼応する分棟構成とし、建物の間に中庭や外部

空間を挿入することで、緑を感じながら回遊できる環境を創出している。1階に駐車場を整備し、2・3階は中庭を囲むように店舗を配置しており、外部の喧騒を和らげ、光と緑あふれる中庭空間を実現している。こうした計画は、かつて事業主の旧邸と豊かな雑木林が広がっていた敷地の記憶を現代的なデザインとして再構築し、仙川というまちの中でリビングのようにくつろげる場を創出するものとなっている。また、照明コンセプトは「人を導く光のシークエンス」。導入部は「面の光」で目を引き、動線部は「線の光」で誘導、ベンチ廻りは「点の光」で滞在を促すという、3つの光で人を導く照明計画が採用されている。

フォレストスクエア仙川

所在地／東京都調布市仙川町
事業主／株式会社カワタケ
設計・施工／株式会社竹中工務店
電気工事／株式会社HEXEL Works
オープン／2025年12月
規模／地上3階（延床面積：5,980㎡）



甲州街道から視認される、夜間の光の演出によって施設の象徴的な顔となる北側ファサード



2階の「SENGAWA TERRACE」から北側を望む。植栽は鉛直面照度を高めた「面の光」



脚元を間接光で照らした蛇籠ベンチの「点の光」とガーデンライトで居場所を演出したテラス



ステップ広場の足元を照らす間接光。接道側に向けて軒先を下げ、まちとの繋がりを創出している



エスカレーター上部のスポットライトは吹き抜けの周囲から照射することで均一な明るさを確保



3階軒天を照らす建築化照明が通路の明るさ感と施設のグレード感を高めている



女子トイレに設置されたペンダントライト「MODIFY」。ミラーライトとダウンライトは肌や髪を美しく見せる高演色タイプ



「SENGAWA DESIGN PIECE」のイラストマップが設置された3階テラス



主な納入設備

- LEDダウンライト
- LED軒下用ダウンライト
- LED軒下用シーリングライト
- LEDスポットライト
- LEDフットスタンド
- LEDペンダント照明